

令和5年度 学校評価シート

学校名：専修学校 クラーク高等学院 姫路校

目指す学校像	「社会で活躍できる人材育成」
育てたい生徒像	1. 基礎学力と基本的な人間力を身に付け、将来の夢を見つけることができる生徒 2. 非認知能力を向上させ、変化する社会で主体的に行動できる生徒 3. 一人ひとりが3年間を全うし、卒業後の希望進路実現を目指す生徒

本年度の重点目標	1 基礎学力とコミュニケーション能力、自学自習の習慣を身に付けさせ、自律的学習者として育成する
	2 ピア学習や探究学習等を通して、豊かで逞しい人間力と確かな実践力を養成する
	3 教職員のチーム体制を再構築し、3年間を通して進路実現を図る

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

自 己 評 価					令 和 5 年 度 評 価 (2 月 2 9 日 現 在)			
年 度 目 標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標				
1	<p><現状> 在校生の80%が不登校経験、学力不振等の課題を抱えている。また、学力差が大きく学習意欲の低い生徒が多い。</p> <p><課題> ・学力把握と基礎学力の定着 ・登校支援 ・個別最適な学習体制、環境の整備</p>	基礎学力の定着	・ティームティーチングによる指導体制の改善と強化 ・基礎学力チェックテストの実施	・効果的な授業進行ができたか。 ・基礎学力の定着が図れたか。	<p>複数教員による指導体制の改善を図ったが、学力下位層の基礎学力の定着が十分ではなかった。</p> <p>個々が行うリフレクション活動への支援にバラつきがあったため、自己分析が不十分だった。</p> <p>教員間での情報共有が不十分だったため、学習状況の把握の程度や指導力に差が出てしまった。</p>	C	<p>・基礎学力チェックテストの実施を徹底し、定着度に合わせた一人ひとりの学習コーチングを強化する。</p> <p>・対話を通したリフレクション活動の中で「できたこと、できなかったこと」を明確にする。</p> <p>・個々の希望進路に必要な学習内容を理解し、学習意欲の向上を目指す。</p>	
		コミュニケーション能力の定着	・自己理解の深化 ・個々の学校活動に対する支援	・個々の習熟度に合わせた自己分析ができたか。 ・一対一の対話によるリフレクション活動を進められたか。				B
		自律的学習者の育成	・個別最適な授業スタイルの構築 ・朝学習、放課後学習等の推進	・EdTech教材を的確に活用できたか。 ・個々の学習状況の把握、管理ができたか。				B
2	<p><現状> 主体的に表現することに苦手意識を持つ生徒が多い。効果的なピア学習、探究学習活動が成立していない。</p> <p><課題> ・3年間を通した支援、指導体制の確立 ・多様な生徒への対応 ・個々の主体的な活動への支援</p>	ピアアシスタント 基礎課程の取得	年間を通した継続的な指導	1年修了時に取得できたか。	<p>個々の目標に向かって取り組めたが、登校支援が必要な生徒への対応は行き届かなかった。</p> <p>各授業間の連携、情報共有が不十分だった。</p> <p>生徒個々の満足度にバラつきが目立った。</p> <p>生徒にとって新たな経験となった。</p> <p>教員間での理解度、指導力に差があった。</p>	B	<p>・ピア学習を通して身に付けたコミュニケーション力を探究学習での実践につなげる仕組みを作る。</p> <p>・探究学習での取組や成果を教員間で共有し、個々の成長に対して丁寧に評価する。</p> <p>・個々の活動が3年間を通した成長につながるよう継続的に支援する。</p>	
		効果的な探究学習活動	・探究学習の新規導入 ・2、3年次における継続的な指導	・各年次の年間指導計画を構築、実施できたか。 ・生徒自身の満足度				C
		主体的な活動に対する実践力の養成	・個々の活動に対して必要な非認知能力の理解 ・適切なリフレクション活動	・実践力として発揮できたか。 ・次の目標へ向かうリフレクションができたか。				B
3	<p><現状> 1、2年次の進路指導が不十分のため、生徒、保護者ともに意識が低い。大学進学率と進路決定率が安定していない。</p> <p><課題> ・1、2年次からの進路指導の徹底 ・教職員間の情報共有や指導力の差 ・個々に合わせた進路指導</p>	進路3か年計画の共通理解	・3年間の活動に関する理解の深化 ・保護者会と三者面談での継続的な進捗確認	・多様な入試への理解を深められたか。 ・生徒、保護者の満足度	<p>保護者に対して、求められる力を身に付けるための取組について定期的に発信することができた。</p> <p>不特定の会議にとどまってしまった。</p> <p>教員間での指導力の差を埋められなかった。</p> <p>教員間でのモチベーションに差があった。</p> <p>計画的な研修の実施、参加ができた。</p>	A	<p>・3年間の活動に関する情報や進捗状況について、継続的に個々の保護者へ発信する。</p> <p>・生徒の情報共有会議を定期的に実施し、複数教員で役割を分担した進路指導を徹底する。</p> <p>・多様な入試制度に関する理解を深めるため、教員間で勉強会や研修を計画、実施する。</p>	
		チーム体制による進路指導の強化	・3年間を通した情報共有の徹底と進捗確認 ・進路指導課による研修	・定期的な会議を実施できたか。 ・複数教員で協議できたか。				B
		多様な希望進路に対する指導力の向上	・外部研修会への参加 ・授業力と面談力の研修	・新たな情報収集やそれらの理解に努めたか。 ・定期的な研修の実施ができたか。				B

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年2月29日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
一人ひとりに対するコーチングを意識した学習指導を提供できたことは評価に値する。学力差や基礎学力の向上に関する課題に対し、全教員で取り組む姿勢を期待する。不登校生徒への継続的な支援については、効果的なアプローチを協議し、複数教員で丁寧に対応してもらいたい。 生徒自身が学習状況を把握し、「できた」という体験を学習意欲へつなげ、継続的な自律学習へ向かうことが重要である。	
1年間を通じて、生徒自身が人間力の向上を感じていたことは評価できる。プレゼンテーション力を養成するためには3年間の継続的な取組の中で対話を重視したコミュニケーションの場を多く設けることが重要である。一人ひとりの役割を見極め、個々の成長につながることを期待する。 様々な活動について有意義な振り返りを行うために設定した目標を再確認し、生徒自らが次の目標設定を行えるよう支援することがポイントである。	
多様な希望進路の実現に向けた工夫が見られ、保護者からの信頼を得ていることに感心した。教員間での情報共有と保護者との連携を継続してもらいたい。進路への意識をより向上させるために、早期の取組を充実させ意識改革を行うことが重要である。 複数教員によるチームでの進路指導体制の中で役割を明確にし、個々の指導力向上を目指すし、進路決定へ尽力してもらいたい。	